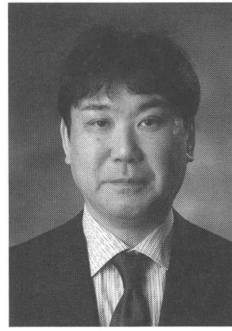


●新会員代表者紹介 井上 寿一



学習院大学学長

福井憲彦前学長の任期満了に伴い、四月一日付で法学部政治学科井上寿一教授が学長に就任した。任期は四年。

井上新学長は一九五六年東京都生まれ。一橋大学社会学部社会学科卒業、同大学大学院法学研究科博士課程単位取得退学。法学博士。一橋大学法学部助手、一九八九年学習院大学法学部助教授を経て、一九九三年学習院大学法学部教授、現在に至る。

学外においては二〇一〇年まで日本国際政治学会評議員を務め、学内にお

いては学校法人学習院企画部長、学校法人学習院理事、学校法人学習院企画部参事を歴任。二〇〇五～〇九年三月まで学習院大学法学部長。二〇一四年四月より学校法人学習院理事、学校法人学習院評議員にも就任する。

研究分野は日本政治外交史。主な著書として『危機のなかの協調外交』（山川出版社、吉田茂賞、政治研究櫻田會賞）、『日中戦争下の日本』（講談社）、『戦前昭和の国家構想』（講談社）、『政友会と民政党』（中央公論新社）等。

新学長は「開かれた（知）のコミュニティをめざして——新しい学習院大学のグランドデザイン」を掲げている。新しい学習院大学をめざして、三つのビジョンを二〇の政策によって実現するためのグランドデザインである。

ビジョンⅠ University Identity の再確立

ビジョンⅡ 世界と社会に広がるネットワーク

ビジョンⅢ 目白の杜のコミュニティ

これらの実現を通して、学習院大学は開放的な中規模大学の新しい（かたち）を発信する。

●新会員代表者紹介 湊 晶子



広島女学院大学学長

四月一日付で湊晶子氏が学長に就任した。

湊新学長は一九三三年神戸市出身。一九五五年東京女子大学文学部社会学科を卒業。一九五六年フルブライト大学院奨学生としてホイートン大学大学院に留学、新約学で神学修士号を取得、引き続きハーバード大学にて初期キリスト教史を研究した。一九八九年と二〇〇一年の二回にわたり同大学より客員研究員の招聘を受けた。若いころ、国際基督教大学寮のフェカルティ・アドバイザー（学園紛争後廃止）として学生たちの指導に親身にあたった。

東京基督教短期大学、東京基督教大学を経て、東京女子大学においてキリスト教史、キリスト教学、女性史を担当、大学宗教委員長、初代キリスト教センター長として活躍。

東京基督教大学時代は教務部長、国際キリスト教学科長として、東京女子大学時代は、二〇〇一年三月定年退職したが、二〇〇二年四月から二期八年学長を務め、二〇一〇年三月退任した。研究分野は初期キリスト教史と女性史で、著書、論文多数。古代ローマの基層宗教と新興宗教としてのキリスト教との相関、奴隸社会に対するキリスト教の実践倫理と社会問題、また女性問題の歴史神学的考察に関するものが多い。研究者としての側面と同時に、長い間ワールド・ビジョン・ジャパン（NGO）に理事として関わり、人権の問題にも取り組んできた。現在アジア代表国際理事である。

一歩家庭に入ると、二男一女の母、五人の孫の祖母という顔には厳しさの中に温かみを感じる向きが多い。四月まで大学基準協会監事として大学と密着し、特に女子大学のあり方を問い続けている姿勢に寄せる期待は大である。

●新会員代表者紹介

田中 優子



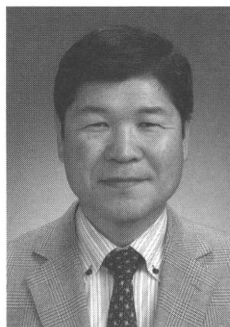
法政大学総長

増田壽男前総長・理事長の任期満了に伴い、四月一日付で就任。任期は三年。一九五二年横浜市生まれ。一九七四年法政大学文学部日本文学科を卒業後、一九八〇年同大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得満期退学。同年法政大学第一教養部専任講師に就任、一九九一年同学部教授、二〇〇三年に教養部改組に伴い社会学部教授、今日に至る。国際日本学インスティテュート（大学院）教授及び国際日本学研究所員、沖縄文化研究所員も兼任。この間、北京大学交換研究員、オックスフォード大学在外研究員、行政改革審議会委員、

国土庁国土審議会委員、文部科学省文化審議会委員、国立国際日本文化研究センター運営協議委員、放送文化基金審査委員、国立劇場専門委員、毎日新聞書評委員、朝日新聞書評委員を歴任し、現在はサントリー芸術財団理事、放送文化基金評議員。二〇〇五年紫綬褒章を受章。二〇二一―二〇二三年社会学部長。専門は日本近世文化、アジア比較文化で、研究は江戸時代の文学のほか、美術、生活文化、海外貿易、経済、音楽、「連」の働き、東アジアと江戸の交流・比較、布や生活文化を中心にインド・東南アジアと江戸の交流・比較研究などに及んでいる。江戸時代の価値観から見た現代社会の問題に言及することも多い。著書に『江戸の想像力』（芸術選奨文部大臣新人賞）、『江戸百夢』（芸術選奨文部科学大臣賞、サントリー学芸賞）、『カマイ伝議義』『未来のための江戸学』『布のちから』『グローバルゼーションの中の江戸』その他多数。法政大学の長期ビジョンの策定と、新たな法政大学像の構築に力を入れる。法政の歴史と特質を生かした大学のグローバル化を進める。

●新会員代表者紹介

早下 隆士



上智大学学長

滝澤正前学長の後任として、四月一日付で早下隆士理工学部学部長が上智大学第一五代学長として就任した。任期は三年。早下新学長は一九五八年宮崎県生まれ。一九八〇年九州大学工学部卒業、一九八二年同大学大学院工学研究科修士課程修了、一九八五年同大学大学院工学研究科博士課程修了。工学博士。専門領域は分析化学・超分子化学。上智大学では、二〇〇五年理工学部

教授、二〇〇九年理工学研究科化学専攻主任を経て、二〇一〇年理工学部長、理工学研究科委員長に就任。大学評議員会議員、男女共同参画推進室室長補佐、半導体研究所所長などを歴任。

このほか、社会における活動として、経済産業省日本工業標準調査会・標準部会委員や、日本学術振興会特別研究員等審査会専門委員、国際事業委員会書面審査委員、科学技術振興機構・科学技術人材養成費補助金・女性研究者研究活動支援事業審査委員などの要職を務めた。

上智大学は、「他者のために、他者とともに」の教育精神のもとに一九一三年に創立され、昨年、創立一〇〇周年を迎えた。新学長として、本学が一〇〇年の歴史の中で築いてきた国際性、キリスト教ヒューマニズムに基づく人間性を最も大切に、この教育精神を土台として、グローバル社会に必要とされる叡智を理解し、貢献し、世界で活躍できる真のリーダーとなる人材育成を目指す。また男女共同参画推進のために、女性研究者支援とワークライフバランスの確立も重要な課題と考えている。

●新会員代表者紹介 村田 治むらた おさむ



関西学院大学学長

井上琢智学長の任期満了に伴い、四月一日付で村田治経済学部教授が学長に就任した。任期は二〇一七年三月三十一日までの三年間。

新学長は一九五五年東京生まれ。

一九八〇年関西学院大学経済学部卒業。一九八二年同大学院経済学研究科博士課程前期課程修了、一九八五年同大学院経済学研究科博士課程後期課程単位取得退学。同年四月関西学院大学経済学部助手として就任。一九九六年に教授。教務部長、経済学部長、高等教育推進センター長を歴任した。教務部長時代には、複数分野専攻制度（MDS）

や日本初のマルチプル・ディグリー制度を実施し、学生が多角的なものごとを考えることができる仕組みを整えた。また、生涯にわたる学習を支援する生涯学習課を新たに設置した。さらに、学生のキャリアデザインをサポートするライフデザイン・プログラムを導入した。専攻はマクロ経済学、景気循環論。主な著書に『現代日本の景気循環』（日本評論社）、『公債と財政赤字のマクロ理論』（有斐閣）がある。

関西学院は今年、創立一二五周年を迎える。創立者W・R・ランバスのように、学生には「自己」を修養し、「世界市民」として社会に貢献してもらいたいと村田学長は願っている。任期中に注力することとして、本学の特徴である国際性のさらなる推進と大学院政策の再構築を挙げている。

趣味は読書とウォーキング。読書の最近の関心テーマは、宇宙論や進化論など自然科学系が多い。休みの日などは二時間ぐらいのウォーキング。歩きながら、研究中の論文や仕事のアイデアについて考えを巡らす。現在、あしなが育英会副会長。同会の前身である交通遣児育英会第四期奨学生でもある。

●新会員代表者紹介 姜 尚中かん さんじゅん



聖学院大学学長

阿久戸光晴前学長の任期満了に伴い、四月一日付で姜尚中全学教授が学長に就任した。

新学長は一九五〇年熊本県生まれ。

一九七四年早稲田大学政治経済学部卒業、一九七六年同大学院政治経済学研究科修士課程修了、一九七九年同博士課程単位取得満期修了。一九七九～八一年旧西ドイツ・エアランゲン大学留学。一九八七～九〇年国際基督教大学准教授（退任時）、一九九六～二〇一三年東京大学同大学院情報学環学際情報学府教授・現代韓国研究センター長（退任時）を経て、二〇一三年から

聖学院大学全学教授就任。社会活動は朝日新聞・紙面審議委員を経て現書評委員、トヨタ財団理事などを経て熊本未来会議委員など精力的に行っている。

研究範囲は、マックス・ウェーバー研究に始まり、オリエンタリズムやナショナリズムなどの政治学や日韓関係論や戦後日本社会論などを視野に入れた、東北アジア共同体形成の展望論を主軸に広範囲に及ぶ。学術著書は『マックス・ウェーバーと近代』―合理化論のプロブレマティク』『オリエンタリズムの彼方へ―近代文化批判』『ナショナリズム』『東北アジア共同の家をめざして』など多数。『悩む力（正・統）』など豊かな啓蒙書のほか、美術論にも造詣が深く、『母』『心』などの小説家でもある。

聖学院大学へ移るきっかけは、同大学のある卒業生の被災地支援への熱い思いに触れたことである。

姜新学長は、人格・見識・学術的などみごとにバランスのとれた強力なリーダーとして、聖学院大学を本拠に、わが国を含む東アジア諸国や世界に提言していく、スケールの大きな飛躍と歴史的貢献が期待される。

●新会員代表者紹介

小野 祥子



東京女子大学学長

眞田雅子前学長の任期満了に伴い、四月一日付で小野祥子教授が学長に就任した。

小野新学長は一九四七年東京都生まれ。一九七〇年東京女子大学文学部英米文学科卒業。一九七三年東京女子大学院人文科学研究科英語英文学専攻修士課程を修了（文学修士）。一九八二年より東京女子大学文学部専任講師、助教授を経て、一九九五年同大学教授に就任。二〇〇九年学部学科再編

により現代教養学部教授に就任。学生の主体性を重んじ、勉学意欲を引き出す教育を行ってきた。

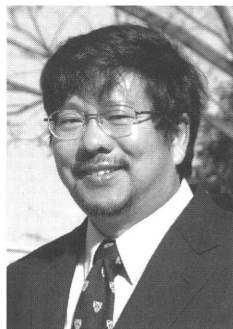
研究分野は英語史、中世英語英文学。特に、フランス語、ラテン語、北欧の古ノルド語などから多くの借入語を受け入れてきた英語語彙の変遷が主なテーマである。現在は、イギリス・十三世紀宗教散文の写本を資料として、語彙の変化の検証に携わっている。

在職中、大学院合同研究科会議議長を務め、博士後期課程設置に尽力した。二〇一三年四月には、全学共通教育部長としてキリスト教の精神、女性の自己確立、教養教育など、本学の教育の特色をより明確化し、それを現代社会に生かす視点で再構築した新しい全学共通カリキュラムをスタートさせた。

文部科学省大学設置・学校法人審議会大学設置分科会委員、大学基準協会大学評価委員等を歴任。今後は、二〇一八年の創立一〇〇周年に向け、日本の「女子教育」を牽引する大学として、建学の精神を堅持しつつ時代の要請に応える「リベラル・アーツ教育」のさらなる充実に取り組む。新学長のリーダーシップが期待される。

●新会員代表者紹介

池田 明史



東洋英和女学院大学学長

村上陽一郎前学長の任期満了に伴い、池田明史教授が四月一日付で学長に就任した。任期は二〇一八年三月末日まで。

新学長は一九五五年神奈川県生まれ。東北大学法学部在学中に二年間英国スタージング大学歴史学科に留学。一九七九年卒業後、アジア経済研究所に研究員として入所、中東地域の現代政治分析に従事。イスラエル国ヘブライ大学トルーマン平和研究所客員研究員、英国オックスフォード大学中東研究所

客員研究員などを経て、一九九七年東洋英和女学院大学に助教授として着任。二〇〇一年教授、二〇〇五年より国際社会学部長、二〇〇九年より副学長。

専門は国際政治学で、主として中東の紛争事例研究、とりわけパレスチナ問題及び中東和平プロセスの実証研究に長く関わっている。主な編著書に「アジア経済研究所から刊行した『現代イスラエル政治』『中東和平と西岸・ガザ』『イスラエル国家の諸問題』」の三部作がある。外務省や日本国際協力機構などの中東和平・国際協力案件に実践的に関与し続け、信頼醸成や連携研究で精力的に活動してきている。

「敬神奉仕」の基本理念を掲げる東洋英和女学院の古き良き学統を受け継ぎ、しかし建学以来四半世紀という相対的に新しい大学のもつ清新さを失わずに、大胆な教育改革に取り組みたいと抱負を述べている。その根底に置かれるべきなのは、小規模女子大学にふさわしい学生と教職員との間の人格的関係の構築と強化である、とも語る。

趣味は中東での在外研究中に習得したスキューバダイビング。学生との合宿で得意の料理を振る舞う一面も。

●新学長紹介 竹宮 恵子 たけみや けいこ



京都精華大学学長

坪内成晃前学長のあとを受けて、四月一日付で竹宮恵子マンガ学部教授が学長に就任した。任期は二〇一八年三月三十一日までの四年間。

竹宮新学長は一九五〇年徳島県生まれ。一九六八年、『週刊マーガレット』（集英社）の新人賞に佳作入選した『リッポの罪』で漫画家デビュー。一九八〇年には代表作『風と木の詩』『地球へ…』で小学館漫画賞を受賞。二〇〇〇年に京都精華大学マンガ学部教授に

着任し、二〇〇八年から四年間マンガ学部長を務めた。

マンガ学部では、「大学という高等教育機関になじむマンガの教育メソッド」をつくりあげてきた。七〇人の学生に対して四人の教員が共同で実技指導するなど、その教育手法を今年「マンガで読み解くマンガ教育」（阿吽社、二〇一四年）にまとめた。

また、神戸大学人文科学研究科との共同研究で三年をかけて完成した『石の綿／マンガで読むアスベスト問題』（かもがわ出版、二〇一二年）は、社会問題にもアプローチできる表現者を育成するために、学生をもっと社会に結びつけていかねばならないという強い思いから生まれた。

竹宮新学長は、本学が一九六八年の開学から理念として掲げている「自由自治」を、大学自身が学生たちの自由と自治を守り、独自の目線で学生たちを見つめて構子定規な考え方で測るまい、という意味が込められていると考える。また、開学以来守ってきた学生と教職員との距離の近さも、五学部四研究科を有する大学となった今こそ、より確かなものにしたと考えている。

●新学長紹介 堺 憲一 さかい けんいち



東京経済大学学長

久木田重和前学長の任期満了に伴い、四月一日付で就任した。任期は四年間。

堺新学長は一九四八年大阪府生まれ。一九七一年香川大学経済学部卒業、一九七六年名古屋大学大学院経済学研究科博士課程単位取得満期退学。東京大学農学部農業経済学科助手を経て、一九八〇年東京経済大学経済学部専任講師、一九八九年教授に就任。一九九四～九六年経済学部長、二〇〇一年二月～〇四年三月学長補佐、二〇〇六年

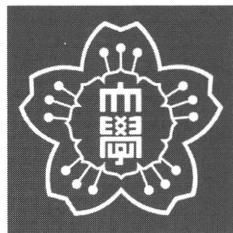
〇八年副学長を歴任。一九八九年に経済学博士（名古屋大学）を取得。専攻は近現代イタリヤ経済史。また、経済小説の書評や評論を多数手がけている。主な著書は『近代イタリヤ農業の史的展開』『あなたが歴史と出会うとき』『日本経済のドラマ』『この経済小説がおもしろい！』『だんぜんおもしろいクルマの歴史』。

東京経済大学は、一九〇〇年に創設された大倉商業学校を前身としている。建学の精神は、チャレンジ精神を意味する「進一層」と「責任と信用」。教育の柱は、経済・経営・コミュニケーション、現代法という四つの学部・研究科である。そして、「専門知識と深い教養を身につける学部教育」を軸に、「社会人としての基礎的な力を育てるベーシックプログラム」と、「高度なプロフェッショナルへのチャレンジを支援するアドバンスプログラム」によって構成される「TKUチャレンジシステム」が実施されている。

名実ともに一新されたキャンパスを舞台に、「チャレンジする大学」「面見の良し大学」「就職に強い大学」を目指す。

●新加盟学会大学紹介

昭和女子大学



一九八八年には米国マサチューセッツ州ボストンに海外校・昭和ボストンを開校し、全学生を対象に海外留学・研修プログラムを実施している。こうした取り組みにより、二〇二二年文部科学省のグローバル人材育成推進事業に採択された。

その後も積極的に改組転換を続け、二〇一四年に短期大学部を廃止。現在は、人間文化学部、人間社会学部、生活科学部、グローバルビジネス学部を設置している。

昭和女子大学の使命はグローバル社会で役割を担い、自立し、行動できる女性人材の育成である。一九二〇年創立の私塾・日本女子高等学院を前身とし、一九四五年に現在の東京都世田谷区太子堂に移転。一九四六年に日本女子専門学校となり、一九四九年には新学制による昭和女子大学が誕生し、翌一九五〇年に短期大学部を設置した。一九七四年に大学院修士課程、一九八九年に博士課程を開設して一貫教育体系を完成させ、同年オープンカレッジの開校で生涯学習機会を提供した。

社会貢献活動では、二〇〇五年に特定非営利活動法人NPO昭和を設立し、世田谷区と協定を締結して多機能型子育て支援拠点施設・子育てステーション世田谷や男女共同参画センター・らぶらすを受託運営している。二〇一四年には地域の窓口となる地域連携センターを開設した。また、二〇一三年に設置した現代ビジネス研究所は、学生・教員・社会人研究員がチームでプロジェクト活動するプラットフォームになっている。社会人女性が学生の相談相手となるメンター制度も用意。世界、企業、社会とつながる教育を実践している。

●新加盟学会会員代表者紹介

坂東 眞理子



昭和女子大学理事長・学長

員となる。翌年から総理府老人対策室参事官補、内閣広報室参事官、総務庁統計局消費統計課長、総理府男女共同参画室長等を歴任し、一九九五年から埼玉県副知事、一九九八年から在豪州ブリスベン日本国総領事となり、二〇〇一年から内閣府男女共同参画局長を務めた。二〇〇三年には米国ビジネスウィーク誌がSTARES OF ASIA賞を受賞している。

累計三〇〇万部を超えるベストセラー『女性の品格』のほか、『日本の女性政策』『図説 世界の中の日本の暮らし』『新家族の時代』など著書は多数。

坂東眞理子理事長・学長は、二〇〇四年に昭和女子大学大学院教授、女性文化研究所長に就任。翌年副学長、二〇〇七年に学長に就任。二〇一四年四月から学校法人理事長を兼務する。

坂東眞理子理事長・学長は富山県に生まれ、一九六九年に東京大学を卒業し、総理府に入省。青少年対策本部、婦人問題担当室専門官を経て、一九八〇年には米国ハーバード大学客員研究

学長就任後、学部・学科の新設再編を進め、また、教員の公募制、任期制を導入した。二〇一三年、女子大学初のグローバルビジネス学部を設置。現代ビジネス研究所や地域連携センターの開設では、学生のプロジェクト活動のフィールドを大きく広げた。また、キャリアデザインポリシーを各学科が定め、社会人メンター制度など、キャリア教育にも力を入れている。

二〇一四年度に女性の職業人を養成するキャリアアカレッジを開講する。

国際連携委員会

『留学生担当者用 大規模災害時の留学生サポーターマニュアル』刊行

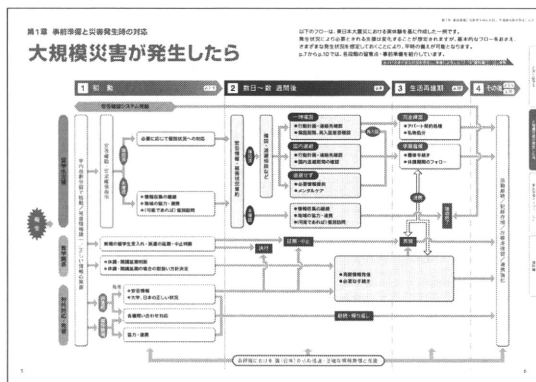
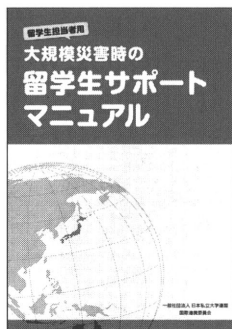
これまで国際連携委員会では、危機管理という観点から、平成十九年度に「派遣危機管理チェックリスト」を、

平成二十年度には「受人危機管理チェックリスト」を作成しました。また平成二十四年度には、インテリジェンスセンター政策研究部門会議が東日本大震災の経験を踏まえて大学全体の総括的チェックリストを「大規模自然災害に対する私立大学間の協力・連携のあり方について」としてまとめました。

このような流れを受けて、大学としての危機管理体制は各々に整えられていることを前提としつつ、特に地震の終

本連盟の国際連携委員会では、東日本大震災で得た経験を教訓として、今後は首都直下型地震、東海地震、南海トラフ巨大地震への備えが必須であると考え、留学生の視点に立ったマニュアルを作成しました。

現在、わが国においては各種のグローバル化政策が推進されていますが、そのベースとなる留学交流をさらに促進させるためには、何よりも日本留学



『留学生担当業者用 大規模災害時の留学生サポートマニュアル』は、大きく分けて二つの内容で構成されています。

第一章は「事前準備と災害発生時の対応」と題し、東日本大震災の経験を踏まえ、実際にどのようなことが発生したか、その対応策また今後に向けてどのような準備が必要かを検討してまとめたもので、フロー図「大規模災害が発生

した」で、全体の流れと各ステージでの対応を概観できます。特に安否確認、留学生の移動、統一された情報発信などが大きな課題となったことを踏まえ、「いまだつ備えるべきか」について検討し、「さまざまな状況を想定しておくことの必要性」「各大学の状況に応じた備え」を呼びかけています。

第 4 章「資料編」では、東日本大震災の際に発生した状況及び推移を、東北学院大学の詳細な記録などに基づき再現しています。これを踏まえ、すでに各大学で取り組みが進んでいる具体的な事例、自治体などの参考情報や関連情報が一覧視できるウェブサイトに情報を、各関係機関のご協力を得て、より一層の備えを進めるための参考情報として発信しています。

★http://www.shidairen.or.jp/blog/info_c/international_c/2014/03/28/14689

連盟ウェブサイト
(マニュアル
公開ページへ)



第352号（平成25年9月発行）

【特集】

求む！理系女子のちから



【座談会】

社会人の「学び直し」に大学は応えるのか

【小特集】

国内キャンパスにおける国際交流の推進

【インタビュー】

有賀明美氏（ウェディングプランナー）

第353号（平成25年11月発行）

【特集】

奨学金政策の今、そしてこれから



【座談会】

サービス・ラーニングの学びが学生にもたらすもの

【小特集】

今、大学は「平和」にどう取り組むかー学徒出陣70年の節目に

【インタビュー】

岩崎絳昌氏（古美術商・西洋アンティーク評論家）



第354号（平成26年1月発行）

【特集】

変わる大学図書館と学修支援の広がり



【座談会】

大学は「2020年問題」にどう向き合うかー18歳人口の減少から大学の今後を考える」

【小特集】

オープンキャンパスのこれから

【インタビュー】

小堀邦夫氏（式年遷宮記念せんぐう館初代館長、神宮禰宜）

第355号（平成26年3月発行）

【特集】

大学のブランディング



【座談会】

いま大学に求められる情報倫理教育とは

【小特集】

「グローバル人材」育成に潜む危険にどう備えるかー大学の海外危機管理体制を考える

【インタビュー】

円 広志氏（歌手、タレント）

●平成二十六年春の叙勲(連盟関係者)
旭日中経章

田村哲夫(青葉学園理事長)

瑞宝中経章

鈴木慎一(早稲田大学名誉教授)

高村弘毅(立正大学名誉教授・元学長)

星野彰男(関西学院大学名誉教授・元常務理事)

山下宏幸(福岡大学名誉学長・元学長)

瑞宝小経章

米永隆司(久留米大学名誉教授)

●企画案・ご意見ご感想の募集

広報・情報部門会議(大学時報)では、購読者のニーズにより合致した情報を提供するため、企画案・ご意見ご感想を随時募集しております。企画案は、同会議で検討させていただきますので、企画をご提案いただく際は、過去の企画記事をご参照いただき、執筆者数、記事数、ページ数などの制約をご理解のうえ、お送りください。①募集内容…企画案(テーマと趣旨)、ご意見ご感想、②書式…自由(A4一枚程度)、③提出先…taigakujiho@sndaic.or.jp、④その他…連絡先(お名前、大学名など)を明記ください。

編集後記

□大学設置基準の大綱化で、一般教育科目と専門教育科目の授業科目の区分に関する規定が廃止され、また大学を取り巻く状況が大きく変化し、教養教育のあり方が問われている。このことは、大学審議会、中央教育審議会などの答申や産業界からの提言などに表れている。教養教育の意義・学士力と教養教育、教養教育の充実に向けた方策を議論の柱として座談会が企画された。総合大学と医療分野で教養教育に注力しておられる大学と、産業界から出席いただいた座談会で、大学教育とは「専門の香りのする教養人」を育成することであると浦野氏がおっしゃったが、大学教育のあり方を一言で表した言葉であった。また、出席の大学では、質の良い学生をいかに育成することがひしひしと伝わってきた。このような議論が各大学の中でも行われることが望ましいという意見を得た。この企画が有意義であったと感じた。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・南山大学理工学部教授 高見 勲)

□企業の採用担当の方々へのお願いです。日本での就職を希望している外国人留学生が御社に応募してきた際は、日本人学生と同じ尺度で見るとは、日本人学生と同じひとりについて人物本位でご対応いただきたく、あらためてお願いいたします。異文化での生活体験をもち、複数言語を身につけた外国人留学生は、昨今のグローバルな経済環境の中にあつて、御社の発展のために、きつと有用な人材になることでしょう。また、交換留学を経験した学生たちも非常に優秀です。彼らが留年しないで無事に就職できることを私たちも望んでおります。

※ ※ ※

さて、日本の大学は、競うように外国人留学生を世界各地から獲得してきているが、はたして彼らが入学する際に、就職活動や卒業後の進路のことにまでわれわれは気を配ってきたであろうか。(広報・情報部門会議(大学時報)委員・上智大学学術情報局長 大日方 聖信)

□「永遠の課題」と言われるくらい、大学における教養教育のあり方は何年にもわたって揺らぎと問い直しの繰り返しの中にある。今号は、大学教育の質向上が叫ばれる今日、避け

て通ることのできない教養教育の課題を取り上げる。大学関係者には、教養教育を展開していく際の「助」として、これから大学で学ぶ者には、教養(教育)を得る(学ぶ)ことの意義について理解いただけるものと考ええる。

今号より、新連載「私の授業実践」がスタートした。いかにして学生たちに学んでもらうか。そこには先生方の日々の工夫と熱い思いが込められた授業が展開されている。本連載を通して、大学教育現場の最前線をご覧いただきたい。

早いもので、「大学時報」の編集担当となつて一年が経過した。本誌の編集に携わってたくさんの方の先進的取り組み、特色ある取り組みを目の当たりにし、自身の学生時代よりもはるかに教育(方法)が多様化していることを感じる。もう一度大学生に戻れたら……。懐かしき母校に思いをはせる。

今の私にできることは、本誌を通して教育関係の方、さらには広く社会に、高等教育の「今」を知ってもらうこと。その使命を再認識し、本年度も、表紙絵「飛翔」のように翔け上がりたい。(日本私立大学連盟事務局 春名 貴明)

は同一学校法人

(121大学 平成26年5月20日現在)

[illegible]

大学時報 5月号

第63卷356号 (通卷370号)

平成26年5月20日発行

編 集 人 音 好 宏 (上智大学文学部教授)

發行人 仙波 憲一 (青山学院大学学長)

発行所 一般社団法人 日本私立大学連盟

〒102-0073 東京都千代田区九段北4-2-25

私学会館別館
電話 03 3369 4969 FAX 03 3369 4969

電話 03-3262-4362 FAX 03-3262-4363
http://www.shidairon.or.jp

印刷所 凸版印刷株式会社

〒112-8531 東京都文京区水道1-3-3

小大	林方	直聖	毅信	致政大学社会学部教授
小大	川井	雄弘	(上智大学学情情報局長)	
中筒	木井	幸爾	(関西大学広報課長)	
赤高	見高	南勲	(関西学院大学入試部課長補佐)	
兼木	村岡	健達	(慶應義塾大学法学部教授)	
葉片	岡澤	大彦	(南山大学理工学部教授)	
片月	田澤	剛子	(日本大学芸術学部教授)	
春椿	名藤	陽貴	(立教大学学生部学生厚生課)	
		明代	(立命館大学総務部広報課長)	
			(園田学園女子大学人間教育学部教授)	
			(早稲田大学広報室広報課)	
			(日本私立大学連盟事務局)	
			(日本私立大学連盟事務局)	



本誌は、WEBサイトにて、全文を無料公開しています。

詳細は、<http://www.shidairen.or.jp/activities/daigakujihou> へ

※バックナンバー（第344号、平成24年5月発行より）もご覧いただけます。

QRコード（から連盟WEBサイトにアクセス）

大学時報

GO

